

これからの コーポラティブ思考の可能性

住まい・まちづくり・コミュニティ

コーポラティブハウス50周年記念イベント

コーポラティブの

これまでと

これから

コーポラティブハウス全国推進協議会
中林由行
千葉大学大学院
丁志映
コーポラティブハウス全国推進協議会
村島正彦

キューブ
部 天宅毅
architecturo.n
内山博文
象地域設計
江国智洋
コーポラティブハウス全国推進協議会
石川修詞

アンデイト
部 安藤勝信
スピーカー
林厚見
エンジョイワークス
福田和則
コーポラティブハウス全国推進協議会
藤田弘之

#6

全6回

2022.8.6 / 13:30 - 17:30

¥3000 (全6回)

これからのコーポラティブ思考の可能性

—住まい・まちづくり・コミュニティ

人口減少・少子高齢化・非婚化が進む現在では、個人・家族を核とした自助を超えて、共助の創出を求める機運は高い。コーポラティブを語彙として分解するとコ・オペレート、「共に運営する」暮らし、住まい、まちづくりが実践的に取り組まれてきている。全6回のシンポジウムの締めくくりは、共助型の住まいの歴史や世界的な潮流にも目を向けながら、これからの「コーポラティブ思考」の可能性について探る。

第一部 13:40～14:20

日本のコーポラティブハウスを振り返る

これまで5回のイベントを総括し、コーポラティブハウスの系譜や、諸外国の事例も併せて振り返る。

●登壇者紹介



小林由行：一九六七年榊建築研究所創設に参加。一九七三年代表に就任。一九七四年からORB運動でコーポラティブハウス活動に参画。一九七八年全国コーポラティブ住宅推進協議会設立に参加し、公的企画の多くに協力。コーポラティブハウス全国推進協議会理事。一九四三年生まれ。



丁志映：日本学術振興会ポスター外国人特別研究員を経て、千葉大学大学院工学研究助教授。其時代「共に住み、共に助け合ひ、共に生きる」における世界の助け合いハウジングシステムの国際研究および先進的な実践を行っている。一九七一年生まれ。



村島正彦：都市計画コンサルタント事務所勤務を経て、二〇〇四年(株)studiohappoを設立。「経営の杜」管理組合。著書に「自分スタイルの住まいづくりコーポラティブハウス体験記」など。コーポラティブハウス全国推進協議会副理事長。一九六七年生まれ。

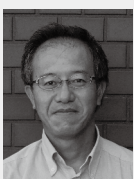
●登壇者紹介



天宅毅：大手不動産デベロッパーを経て、一九九六年榊キープを設立。阪神淡路大震災の復興でコーポラティブハウスを採用し、現在もコーポラティブハウスを継続。事業を通じて定期借地やテラスハウス、一団地等様々な可能性を探る。一九六四年生まれ。



内山博文：大手デベロッパー、榊都市デザインシステム、榊リビタを経て多数の事業モデルを構築し、二〇一六年(株)formlandを設立。他複数企業を運営。(社)リベーション住宅推進協議会会長、国交省中古住宅市場活性化ラウンドテーブル委員。一九六八年生まれ。



江国智洋：一九九五年榊象地域設計事務所。密集地の共同建替え事業、コーポラティブハウスのコーディネート等を務める。著書に「人と緑をばくむまちづくり」社会派建築宣言「大家と居住者の共生ものがたり」「住宅白書」いずれも共著。一九六九年生まれ。



石川修詞：創業初期の都市デザインシステムを経て二〇〇九年(株)タウン・クリエイションを設立。現在もコーポラティブハウスを継続。コーポラティブハウス全国推進協議会理事、(公社)東京共同住宅協会会長、東京都耐震化推進部民会議委員。一九八八年生まれ。

コーポラティブハウスの現役プレーヤーから、現状の課題、手法の応用可能性について議論する。

第二部 14:25～15:35

コーポラティブ方式の今とこれからの視点

第三部 15:40～16:45

コーポラティブ的視点からのトランスフォーム

これからの時代における不動産事業の創造について、コーポラティブ的視点を切り口に、様々な角度から議論する。

●登壇者紹介



安藤勝信：(株)アンディート代表取締役。古い建物を所有者とて新しい価値に再生し、住まい手の愛着や地域のつながりを育んで、代表物件に築30年の木質を福祉エリアで再生したタカヤモ大蔵など。都内といえず市の二地域居住を実践中。一九七五年生まれ。



林厚見：スビーク共同代表(東京R不動産イテクト)。不動産サイト「東京R不動産」や空間編集のウェブマガジン「topoblog」等のマネージャー。他、建築・不動産・地域の再生、開発のプロデュース、宿泊施設・飲食店舗・イベントスペースの運営等を行う。一九七二年生まれ。



福田和則：外資系金融機関勤務を経て、二〇〇七年エンジョイワークスを設立。まちづくりや家づくりのジブンゴト化による豊かなライフスタイル実現をテーマに事業展開を行う。まち・ひと・お金の新たな関係性構築に取り組み。一九七四年兵庫県生まれ。



藤田弘之：大手ハウスメーカー(株)都市デザインシステムを経て二〇〇八年(株)ライコサールディングを設立。コーポラティブ住宅「ス・ヴィレッジ・賃貸」二〇〇〇世帯以上の企画運営に関わり、自らも長年コーポラティブハウスの居住経験がある。一九七〇年生まれ。

まとめ・質疑応答 16:50～17:30

これまでの議論を総括し、登壇者・参加者へ交えてコーポラティブ思考の可能性を議論する。

コーポラティブハウスの歴史を顧みると、時代や経済動向、住生活者のニーズによる変遷が見て取れる。本シンポジウムは複数回に分けて、時代や目指した住まいのあたりに応じて分類して行うこととした。各回、代表的なプロジェクトに関わった関係者をお招きし、振り返るとともに、コーポラティブの未来を展望する。

第一回…ポストバブル・事業モデルの先駆け
都市デザインシステムの挑戦

第二回…郊外マスのハウジングから参加型の模索
コープ協&公社・公団によるコーポラティブハウス

第三回…都市居住のこだわりと実践
手段としてコーポラティブ

第四回…多様な住まい方への展開
DIY賃貸・シニアハウス・コモン付き賃貸

第五回…日本のコーポラティブハウス半世紀
実践者が語るいまこれから

第六回…これからのコーポラティブ思考の可能性
住まい・まちづくり・コミュニティ

Paytoにてお申し込みとなります。

料金：三〇〇〇円(全6回)

詳細：<http://coopkyo.gr.jp/>



●コーポラティブハウス全国推進協議会について

NPOコーポラティブハウス全国推進協議会(愛称：コープ協)は、良質な住まいと誰もが安心して暮らせる良好なコミュニティや住環境を実現するために「コーポラティブ方式」による「住民参加の住まい・まちづくり」の普及推進を図ることを目的に、一九七八年に設立されました。建築家、事業コーディネーター、金融関係者、研究者など、コーポラティブハウスに関わる事業分野の実務家・研究者が中心となり、凡そ40年にわたり、「コーポラティブ方式」を通じた、住み手が主体となった住まい・まちづくりを支援し、その普及を推進しています。

●お問い合わせ

NPOコーポラティブハウス全国推進協議会事務局
東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2F
03-6206-4558 / mail@coopkyo.gr.jp